

愛媛県におけるマルチビゲンゴロウの追加記録

原 有助^{1,2}・松岡基憲¹・村上 裕¹¹愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター²愛媛大学農学部生物有機化学研究室

写真1 *Leiodytes frontalis* マルチビゲンゴロウ (BCEJ-Ent 00038). スケールバー: 1mm. 撮影: 原 有助

種の記録

Dytiscidae ゲンゴロウ科

Leiodytes frontalis (Sharp, 1884)

マルチビゲンゴロウ (写真1)

標本 11 exs., 東温市志津川日吉谷, 8 ix 2023, 愛媛県立衛生環境研究所生物多様センター標本 (BCEJ-Ent) 00038–00048. 6 exs., 西条市丹原町寺尾, 24 x 2024, (BCEJ-Ent) 00049–00054. いずれも原 有助採集. 体長 1.5–2.0mm.

種の特徴

日本国内から4種類のマルチビゲンゴロウ属が確認されており, 標本個体は背面が黄赤褐色で強い光沢があり, 両眼間を結ぶ横刻線があること, 触覚第3~4節以降と腹面が褐色を呈すること, 体型が短卵型で強く膨隆することなどから本種と同定された (上野ほか, 1985; 森・北山, 2002; 中島ほか, 2020).

備考

本種は環境省と愛媛県のレッドリストでともに準

絶滅危惧種に指定されている (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2020; 愛媛県県民環境部自然保護課, 2022). 本種は国内37都府県と隠岐諸島から報告されており (渡部, 2021), 県内では今治市, 四国中央市, 松山市, 砥部町, 伊予市, 西予市, 宇和島市, 鬼北町, 松野町の9市町から知られていたが (渡部・久松, 2016), このたび新たに東温市と西条市で確認されたため報告する. 本種は水深の浅い場所に見られるとされ (中島ほか, 2020), 今回の確認環境もため池の水際部と小さな水たまりであった.

謝辞

本報告にあたり, 投稿を薦めて頂いた愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター次長竹中彰一氏ならびに日吉谷のため池情報をお教え頂いた愛媛大学農学部錦織龍生氏に厚く御礼申し上げる.

引用文献

- 愛媛県県民環境部自然保護課. 2022. 愛媛県のレッドリスト 2022 (<https://www.pref.ehime.jp/uploaded/attachment/142988.pdf>, 2025年3月26日参照).
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. 2020. 第4次環境省レッドリスト 2020 (<https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>, 2025年2月27日参照).
- 森 正人・北山 昭. 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京. 232pp.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之. 2020. 日本の水生昆虫. 文一総合出版, 東京. 352pp.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 (著・編). 1985. 原色日本甲虫図鑑II. 保育社, 大阪. 514pp.
- 渡部晃平. 2021. 日本産ゲンゴロウ上科の国内分布一覧表 (<https://sites.google.com/view/aquatic-insects-fan/home/Dytiscoidea>, 2025年2月27日参照).
- 渡部晃平・久松定智. 2016. 愛媛県のゲンゴロウ上科 (コウチュウ目). 面河山岳博物館研究報告, (7): 1–17.

(2025年3月26日受付, 2025年3月31日公開)

連絡先: 原 有助 (e-mail: hara-yusuke@pref.ehime.lg.jp)
(Yusuke Hara, Motonori Matsuoka and Hiroshi Murakami. 2025. Additional record of *Leiodytes frontalis* (Dytiscidae) in Ehime Prefecture, Japan. NS Fieldnote, 25005)